

橋本神社菓子祭 平成31年4月6日

サニケイ新聞 4月10日 23面

菓子業界の繁栄祈願 海南・橋本神社で奉獻祭

菓子業界の繁栄を祈願する参拝者——海南省



菓子やミカンの神「田道間守」を祭る海南市の橋本神社で、恒例の「菓子祭・全國銘菓奉獻祭」が行われた。全国各地の菓子メーカーが菓子を供え、業界の発展を祈願した。

田道間守は、ミカンのルーツとされる橘の木を日本で初めて神社の旧社地に植えたとされる。橘は菓子として食べられたため、菓子の神様としても信仰されてきた。

今年は北海道から鹿児島まで過去最多の187社が裏子を寄せた。祭では前山和範宮司が祝詞を読み、巫女の舞も披露された。参列者は玉串を捧げた。餅や菓子をまく「お餅投げ」もあ

り、多くの参拝者でにぎわっていた。

茶と一緒に出す上生菓子を作る大阪市阿倍野区の老舗「御菓子司 鶴屋茂廣」の中島正揮店主は「若い世代は茶席になじみがない。茶の文化と一緒に、伝統の菓子も広まってほしい」。前山宮司は「まもなく元号が平成から令和にかわるが、新しい時代でもお菓子が広く愛されれば」と話していた。

よみうり新聞 4月17日 25面

菓子業界発展願い 全国の関係者参拝 橋本神社で祭り



菓子や餅をまく海
ヤン（海南市）

殿に並べられ、商売繁盛を祈願する祝詞などの後、参加者が玉串をささげた。

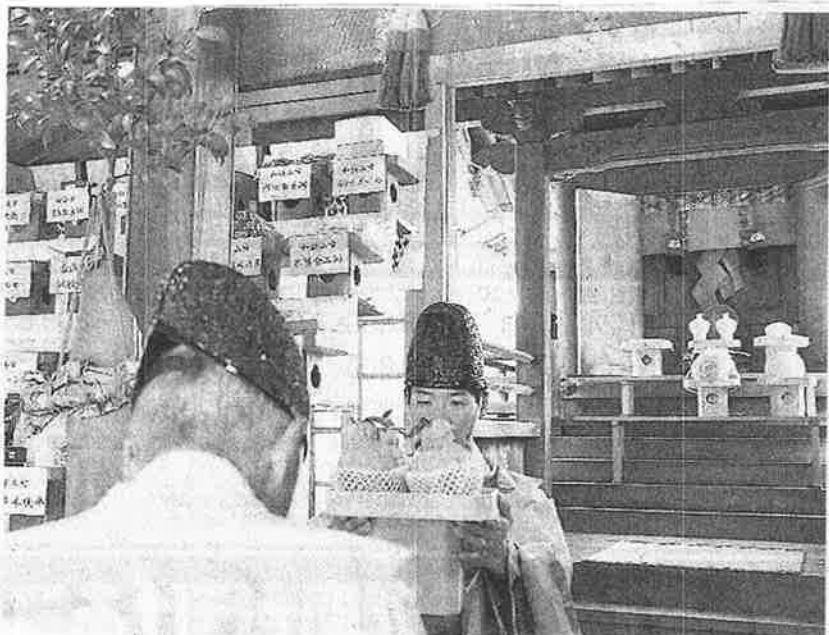
菓子の街・海南をPRするキャラクター「海ニヤン」も駆けつけ、境内で菓子や餅を子どもにまくと、歓声が上がった。前山和範宮司は「もうすぐ令和の時代を迎える。新しい気持ちで業界の発展を祈願していく」と話していた。

菓子やミカンの神様「田道間守」をまつる海南市下津町の橋本神社で6日、「菓子祭・全國銘菓奉獻祭」があり、全国から製菓関係者ら約60人が参拝した。

田道間守はミカンの原種「橘」を中国から持ち帰り、神社近くに植えたとされる。橘の実は菓子の起源とされ、神社では1965年から菓子祭を開いてい

る。北海道から九州までの187社が奉納したチョコレートやクッキー、和菓子など約300種類の菓子が拝

平成31年4月7日
朝日新聞 25面



菓子業界の発展願う

海南・橋本神社で奉獻祭

ミカンやお菓子の神様
「田道間守」をまつる橋本

神社（海南省下津町橋本）
で6日「菓子祭・全国銘菓
奉獻祭」があった。商売繁
盛を願って、全国のさまざ
まなお菓子が奉納された。

この祭りは1965年に
始まつた。今回で55回目。
これまで最多の187社
が参加した。それぞれ自慢

お菓子が奉納された拝殿の中
供え物をする神主ら（海南市下
津町橋本）

のビスケットやチョコレート、まんじゅうなどのお菓子を奉納。前山和範司（55歳祝詞）が祝詞を読み上げ、お菓子業界の発展と商売繁盛を願つた。

海南市日方にある洋菓子店「HIRO・MARUI CHI」は、県産の果物や牛乳で作ったバウンドケーキなどの洋菓子を奉納。同店のパティシエ児嶋悟さん（51歳）は「お菓子業界がもつと発展して、食べる人に笑顔を届けられたら」と願つ

た。

橋本神社は「田道間守」をまつっている。不老不死の「常世國」からミカンの原種「橋」を持ち帰ったと伝えられている伝説上的人物。持ち帰った橋は橋本神社の近くに植えられた。それが改良されてミカンとなりたとされる。橋は加工されてお菓子として食べられていたことから、田道間守は「お菓子の神様」として親しまれているとい

う。（成田愛恵）

大阪市

週刊 葦葉時報

平成31年4月22日放

祭と第55回全国銘菓奉獻祭



銘菓奉獻祭に参拝した一行

菓祖・橋本神社（前山和範宮司、和歌山県海南市下津町）恒例の「春祭・菓子祭および第55回全国銘菓奉獻祭」が、4月6日に斎行された。当曰は天候もよく桜が満開の中、地元・和歌山をはじめ大阪、岡山から

員、傘下組合員ら7人が参拝。今年は今まで一番多



奉獻祭終了後の餅投げに集う人々

北海道まで菓子業界関係者多数が参列した。大阪からは、大阪府菓子商工協同組合連合会が貸切バスで午前9時に大坂難波を出発し、同会役員、傘下組合員ら7人が参拝。

い全国187社の企業から銘菓が献上された。菓子祭・銘菓奉獻祭は、奉獻菓子が並んだ拝殿において午前11時20分から始まり、国旗掲揚のあと力強く打ち鳴らされる太鼓の音とともに開式。

古式にのっとり修祓、富司一拝、開扉、献饌、とすすみ前山宮司が祝詞奏上で全国187社の企

業名を織り込み菓子業界の隆昌と各社の繁栄を祈願した。

続いて「浦安の舞」を奉納、橋本神社子どもの道間守の歌を奉唱し、菓子の街・海南をPRする橋をモチーフにした「海ニヤン」が紹介された。

続いて玉串奉奠に移り、氏子総代会会長、駒井良章・和歌山県菓子工業組合連合会理事長、野村泰弘・大阪府菓子商工協同組合連合会理事長、岡部友彦・同組合副理事長に続

成最後の春祭に今まで一番多く奉賛いただき、今日は北海道菓子工業組合からも参拝に来ていた。宮司は謝辞を述べ、「平成最後の春祭に今までだき大変感謝している。南海市ではお菓子の振興に関する条例が制定された。菓祖神を祀る神社として地域の振興に取り組んでいきたい。また令和2年は10年に一度の大祭1950年祭開催の年にあたるのでご支援のほど直しくお願いする」と話した。

餅投げには、地元をはじめ他府県から多くの人々が参加し、境内の桜が舞い散る中、餅や駄菓子が投げられ賑わった。その後、橋本公民館において直会を開催。駒井事長、野村大阪府菓子商

き、参拝者一同が玉串を奉奠した。

神出政巳・海南市長、秋山秀行・DAGASHI Iで世界を笑顔にする会長が祝辞を述べたあと、祝電が披露され、撤饌、閉扉、宮司一拝で神事を終えた。最後に前山宮司は謝辞を述べ、「平成最後の春祭に今までだき大変感謝している。南海市ではお菓子の振興に関する条例が制定された。菓祖神を祀る神社として地域の振興に取り組んでいきたい。また令和2年は10年に一度の大祭1950年祭開催の年にあたるのでご支援のほど直しくお願いする」と話した。

餅投げには、地元をはじめ他府県から多くの人々が参加し、境内の桜が舞い散る中、餅や駄菓子が投げられ賑わった。

その後、橋本公民館において直会を開催。駒井

事長、野村大阪府菓子商工協同組合連合会会長が祝辞を述べ、岡部大阪府菓子商工協同組合副理事長が乾杯の発声をとり、意見交流を行った。

第55回橘本神社銘菓奉納祭

全国から過去最高の187社の菓子

名古屋市
菓子館新聞
平成31年4月12日号



菓子業の祖神として知られる橘本神社（和歌山県海南市、前山和範宮司）では、毎年恒例の一第55回銘菓奉納祭」を4月6日に執り行い、業界関係者多数が参加した。

当日は晴天に恵まれ、境内の桜が満開、菓子業界寄進の枝垂れ桜は五分咲きと奉納祭日和となつた。

境内の大型テントは、奉納祭は式次第によることにより設営された。

参列者の日よけとして配慮（橘本地区自治会長落合氏談）により設営され、境内の大庭園には、

950年となり、橘本神社では、節目として10年

次年は、田道間守公が

哭死（こくし）されて1

950年になり、橘本神

社では、節目として10年

に一度開催する記念の大

祭廟行年になつてゐる。

菓祖神田道間守公の存

在は、前山宮司が菓子博

や各地の菓子イベントに

出向いての安全開催祈願

や業界の発展祈願祝詞な

どの尽力もあつて、今年

参列者の日よけとして配

慮（橘本地区自治会長落

合氏談）により設営され

た。

奉納祭は、式次第によ

ることにより設営され

名古屋市 食品産業新報

平成31年4月15日

(第三種郵便物認可)

食 品 產 業 新 報

平成31年4月15日 (第1377号) (8)



業界人なら一度は

和歌山県海南市下津町
橋本に鎮座する橋本神社
は、菓子業の祖神として
また柑橘・文化の神として
広く崇敬される田道間守
(たじまもり) 公を奉
祀する山緒ある神社で、
同社恒例の「鉢堀奉納会」
は平成26年には50回の節
目を越えて開催されており
、来年は10年に一度開
催する記念の大祭施行年
となつてゐる。

祭に併せて、第1回"と
して開催以来、今回で55
回目を迎えた。銘菓奉獻
会は、快晴で春の陽差
しが降り注ぐ絶好の日和
にも恵まれ、周辺の桜や
名古屋生菓子工業協同組
合が創立57周年で記念植
樹した境内の枝垂れ桜が
盛りを目指した五分咲き
の元で举行され、全国各
地の製菓メーカーから献

に供える中、国旗掲揚、太鼓、修祓に続き、前山宮司による祝詞草上、祝詞奏上（銘藻奉獻者）など一連の神事が厳かに執り行われ、業界関係者等多数が神前に玉串を奉納して参拝し菓子業界の発展と各企業の繁栄を祈願。また、同社氏子代表の子供達による浦安の舞や「国道間守（たじまもり）」の

業界関係者等多數が参画

業界関係者等多数が参拝

菓子業の祖神として崇
敬される田道間守（たじ
まもり）公を奉祀する橘
本神社（きつもとじん
じや・前山和範宮司）和
歌山県海南市下津町）で
は同社奉獻会主催の「第
55回菓祖・橘本神社誌菓
奉獻会」を4月6日(土)前半

11時、同社社殿において、
行。北海道から沖縄まで、
全国各地の製糞メーカー（
87社）から集まつた糞
製品を神前に献上し、
神として崇められる報恩
誠をあらわし、糞業界の繁
栄と各企業の繁栄を祈
し、盛大な催しなつた。

第55回銘菓奉獻会を挙行 菓祖・橋本神社が

歌や海南市公認で橋本神社ゆかりのお菓子ゆるキヤラ「海ニヤン」も披露され無事滞り無く神事を終了。今回も境内に並べられた椅子席はほぼ埋まり後ろには立ち見の客が多く見受けられた。

また事後開催された直会で挨拶に立った前山田司は「当社の『全国鎌菓奉納祭』は、昭和40年が初年度で、来年は10年毎に開催する大祭となる。今回も187社と過去最高の奉献の申し込みを頂き、多くの皆様方からお支え頂き、ご献菓を継続的に続けて頂ける催しとなつたと大変嬉しく心より感謝申し上げる。皆様のご協力の下、滞り無く無事終了する事が出来ましたのは田道間守公の御尊きと業界関係者のご協力のおかげと感謝すると共に、橋本神社を皆様と共に繁栄継承して行きたい。今後共弊社に対して倍旧のご支援を賜る様て広く崇敬される田道間守（たじまもり）公を奉祀する由緒ある神社で、同社恒例の鎌菓奉納会は平成26年には50回の節目を越えて開催されており、来年は10年に一度開催する記念の大祭斎行会が

衷心よりお願い申し上げる……”と御礼の挨拶が述べられ岡山から参加した。DAGASHIで世界を笑顔にする会の秋山会長（㈱大町社長）も祝辞に立ち、前山宮司から認定田道間守尊が神になられた3月12日を”だがしの日”として設定して頂き日本記念日協会から認定も頂いた。今年は全国の被災地18ヶ所で”だがし”と笑顔を交換するイベントを開催し多くの子供たちに喜んで頂けた。来年は上野動物園をメイン会場にして、北海道と九州から”だがし”トーチリレー”を元オリンピックランナーに参加してもらつて、”だがし”と笑顔の交換イベントを計画している。駄菓子は世界に類を見ない日本の素晴らしい”平和”等々、其存する榮文化”ゆえ、子供達に伝え、お菓子を通じて世界平和に繋げて行きたい”と述べ、菓子撒き・餅撒きなども行われ盛大な神事を閉めた。

